

# ユースセンター設立に向けた若者委員会

NPO法人Dive in!

- 目的

近年、不登校や孤立、相談先の少なさなど、若者を取り巻く環境は厳しさを増しています。家庭・学校以外に安心して過ごせる「第三の居場所」が不足しており、「どこにも居場所がない」と感じる若者も少なくありません。

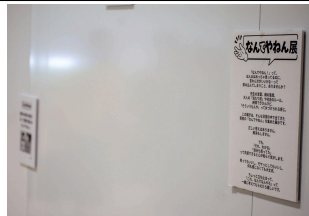
本事業では、10代～20代前半の若者自身が主体となり、若者が安心して過ごせ、やってみたい気持ちを大切にできるユースセンターの設立を目指しました。若者が話し合い、試行錯誤しながら場づくりに関わることで、「自分たちの居場所を自分たちでつくる」経験を積むことを目的としています。

- 活動内容

若者委員会「STARDASH」を立ち上げ、若者が主体となって定期的な話し合いや視察、まち歩きを行い、ユースセンターの構想を整理しました。

また、地域イベントや出張ユースセンターを通じて実践を重ね、若者や地域の声を集めながら、居場所づくりのあり方を検討しました。

日程	取り組み名	内容	参加人数
月1～3回程度	若者委員会打ち合わせ	ユースセンター設立に向け、若者主体で定期的な話し合いを行い、イベント企画や居場所のあり方を検討した。	若者委員会 8名
随時	視察・まち歩き	他地域ユースセンターの視察やまち歩きを通して、運営方法や立地、場づくりの要素について学んだ。	若者委員会 8名
4回	出張ユースセンター	公共施設や地域拠点を活用し、若者が安心して過ごせる居場所を実践的に開設した。	46名
6回	地域イベント参加・発信	地域イベントや大学等に参加し、活動紹介や交流を通じてユースセンターの必要性を発信した。	106名
随時	拠点検討・運営準備	ユースセンター設立に向け、候補物件の検討や運営体制づくりを進めた。	若者委員会 8名



- 成果

- 若者が主体となって企画・運営・発信に関わる体制を構築できた。
- 出張ユースセンター等を通じて、学校外で若者が安心して過ごせる場を複数回実施した。
- 若者から「理由がなくてもいい場所がほしい」「放課後に行ける場所がない」といったリアルな声を集め、場づくりの方向性を明確化できた。
- 地域住民や支援者、行政関係者とのつながりが生まれ、ユースセンターの必要性を共有できた。
- 若者自身が「考え、伝え、形にする」経験を重ねることで、自信や主体性の芽生えが見られた。